

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	272501511		
法人名	医療法人すみれ会		
事業所名	グループホームすみれ湖		
所在地 (電話番号)	〒039-2402 青森県上北郡東北町上北北1丁目34 - 390 (電話) 0176-58-1127		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 1月 22日	評価確定日	平成 21年 3月 17日

【情報提供票より】(平成21年1月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 ~ 37,000 円	その他の経費(月額)	5,000 ~ 冬期10,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 750 円		

(4) 利用者の概要(1月5日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	すみれ内科クリニック、沼山歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲に民家が点在し、駅や商店街にも程近い田園地帯に位置している。居室から見える田畑にはキジや小鳥も来るなど、自然に恵まれた環境にある。敷地内には同法人が運営するクリニックがあり、週1回の往診のほか、看護師の夜間の待機や必要時には夜勤も行うなどの協力体制が充実している。家族の希望によって「看取り」を行っており、実際に利用者を看取った経験もある。玄関ホールでつながった2ユニットだが、ユニット間の利用者の行き来は職員把握のもと自由に行なえるようになっており、利用者にとってより心地よい居場所を見つけやすい状況になっている。理念の他に「すみれ湖の3つの喜び」と題したスローガンを掲げ、スタッフは理念とともに常に念頭に置き、利用者のケアにあたっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での助言を受け、法人の理念とは別に地域密着型としての独自の理念をスタッフ間で話し合い、設定した。スローガン「すみれ湖の喜び」と共に各ユニットのホールに掲示している。スタッフ皆で話し合ったことにより、その意義を共有することにもつながり、プラン作成にも反映されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義はよく理解されており、自己評価にあたってスタッフ全員で話し合い、自らのケアに対して振り返りの機会となっている。話し合いを通じ、今後の課題もよく認識されており、管理者、スタッフ共、改善に向けての意欲も強く持っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されており、役場職員、商工会や婦人部、町内会の役員、民生委員、消防や警察など、参集者は多岐に渡り、各回10~15名の参加がある。利用者の家族全員に出席を依頼し、利用者自身の出席も積極的に支援している。意見や要望を引き出す工夫として、利用中の様子が分かる写真入りの「活動報告」を作成している。新たに独自の理念を作成した際には、そのことを説明し、理解を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	運営推進会議の際に、参加した家族と個別に面談し、意見や要望を聴取している。管理者が交代する場合には、電話でその旨を報告した。ホーム便りの発行は滞っているが、その重要性は理解され、来月に発行の予定とのことであり、今後の継続した取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民からの農作物の提供が頻繁にあり、利用者が漬物を作ったり、献立に1品加えたりしている。また、住民の趣味である「切り絵」の寄贈もあり、ホーム内各所に飾られている。散歩時には、挨拶や住民からのさりげない声掛けなどを受けている。地域のまつりや町の敬老会への参加も積極的で、保育園児や小中学生の訪問はホーム行事に合わせて随時受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価結果を受け、法人の理念を元にスタッフが話し合い、独自の理念を作成し、ユニットごとにホールに掲示している。運営推進会議でこのことを報告した他、利用者には契約時に説明している。パンフレットを作成し直す予定があり、理念を明記することも検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時のオリエンテーションで説明し、理解を促している。ケアプランに反映させることも常に意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	開設時より町内会へ加入し、地域の祭りや敬老会へは積極的に参加している。日常的に農作物や装飾品の提供がある他、ホーム外での活動の際には挨拶を交わしたり、住民から利用者へさりげない見守りの声掛けを受けたりしている。ひな祭りやクリスマスなどのイベント時に保育園児や小中学生の訪問を受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>1月に管理者の交代があり、スタッフも昨年の評価以降入れ替わりがあったが、自己評価についての話し合いにより、その意義の共通理解は得られている。昨年の評価での課題については問題意識をもって解決に向けての取り組みが行われている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、定期的開催されている。利用者の状況について写真入りの「活動報告」を作成し、資料として提示している。全利用者の家族へ参加を促し、約半数の参加を得ている。会議では参加者から意見聴取し、運営に反映させる取り組みが行われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>役場の介護保険担当へ入居状況を定期的に報告している。利用者についての相談も積極的に行い、実際に役場からのアドバイスを受けて、地域福祉権利擁護事業を3名の利用者が利用することとなった。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度利用が妥当と思われる利用者について役場へ相談、実際に地域福祉権利擁護事業の利用につながった方が3名いる。スタッフは制度に対して概ね理解している。外部研修等への参加にも意欲を持っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に対する研修が行われ、その防止についての重要性はよく理解されている。今後さらに話し合いを行う予定もある。スタッフの間では、日常的に利用者への接し方について、気軽に意見し合える雰囲気がある。</p>		<p>ホーム独自のマニュアルを整備することで、虐待防止に対するより高い意識が持てると思われることから、今後の話し合いを通じ、検討されることに期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時の重要事項説明は計画作成担当者が実施している。分かりやすい言葉で説明することを心がけ、理解の程度を確認しながら進めることでトラブル防止に努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>運営推進会議に出席した家族に対して、会議後に個別に利用者の状況を説明する機会を設けている。管理者交代の際には電話で各家族へ報告した。ホーム便りは、年4回の発行となっているが、担当スタッフの退職以来、今年度は発行が滞っている。</p>		<p>ホーム便りの発行は再開の予定があるとのこと。運営推進会議への出席がない家族に対しても、例えば、請求書郵送時に出納状況報告やスタッフの異動の状況、生活状況等を同封するなどし、定期的に利用者の状況を報告する体制を作ること期待したい。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関ホールに「意見箱」を設置しているが、実際の投書は少ない為、面会時や電話にて意見を聴取するよう努めている。運営推進会議へ出席した家族からは、会議の場だけでなく個別に意見を聴取し、運営に反映させている。また、月に1回、町の介護相談員が来所し、利用者の意見を聴取しスタッフへ伝える機会を設けている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の交代の際は、各家族へ電話にてその旨を伝えている。離職を防ぐ取り組みとして、雇用条件の見直しなどの工夫をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には管理者が中心となって参加し、他のスタッフへ伝達研修を行なうほか、資料は自由に閲覧可能な状態で保管している。		研修への参加状況は良好であることから、今後は研修の成果をより効果的なものとする為にも年間計画を立て、それに基づいてスタッフ育成に取り組むことに期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の地域包括ケア会議には積極的に参加している。グループホーム協議会へ加入しているが、協議会主催の研修への参加は行なわれていない。		同業者と交流することで、意見交換を図り、自事業所の取り組みを振り返る一助とするためにも、研修の参加などを通じ、積極的に協議会と関わりを持つことに期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急的な入居が多いが、入居前の体験利用の受け入れ体制がある。重要事項説明時に事業所の特徴等について説明し、理解を得ている。家族から情報収集を行うことで、利用者の人となりやこれまでの生活を把握するよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	近隣住民より提供された大根を利用者の指導の下で味噌漬けにしたり、調理の際に味付けのアドバイスをもらったり、利用者の知恵、知識を活用することを意識したケアを行なっている。個々のケース記録に記載し、継続した取り組みを行なっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「センター方式」でのアセスメントを実施、本人の意向の把握に努めている。3ヶ月に1回のモニタリングを実施し、カンファレンスの内容は1冊のノートにまとめ、全スタッフが容易に目を通せるよう工夫をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスで、サービス計画書についての意見交換や、新たに発生したニーズの検討を行なっている。計画作成に当たっては、面会時や電話等で家族の意見を聴取し、反映させている。作成したケアプランは家族へ説明し、同意を得てから実施に移している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回のモニタリングを行ない、計画書の見直しを実施している。入院後や更新申請にて要介護度が変更となった場合など、状態に変化があった際には再度アセスメントを実施し、ニーズの把握に努めている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族や本人の希望に応じて、希望する病院への通院介助や更新申請代行、金銭管理などが行なわれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人運営のクリニックが協力医療機関となっている。週1回の往診の他、必要に応じて外来受診を行っている。体調不良時にはクリニックの外来看護師が来所し点滴等の処置を行なう。希望に応じ、歯科医院や遠方の総合病院への通院介助も積極的に支援している。また、クリニックの看護師による夜間のオンコール体制が整っている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	希望に応じ「看取り」を実施しており、これまで実際に利用者を看取った経験がある。入居時に終末期の意向を確認する他、状態変化の際には随時意向の確認が行われている。看取り期の利用者に対しては、隣接医療機関の外来看護師のオンコール体制による支援の他、夜勤帯は隣接施設の看護師に協力を求め対応している。マニュアルはなく、看護師の指示で行動している。		看取りの体制が非常に充実しており、実績もあることは高く評価できる。現在行なわれていることをマニュアル化することで、スタッフの心理的負担軽減を図り統一した対応が容易になると思われる。新人スタッフの学習ツールともなり得るため、今後の更なる対応に期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に「個人情報利用同意書」について説明、確認印をもらっている。スタッフに対しても採用時のオリエンテーションで説明している。利用者に対する言葉掛けについて、日頃からスタッフ間で互いに意見交換が出来る。電話等での利用者についての問い合わせには、特に慎重に対応している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通して把握できた利用者個々の1日の過ごし方に沿って支援している。スタッフは情報交換を随時行うことで、共通のこととして把握出来ている。		利用者個々の日課について、一覧化することで、統一したケアが提供でき、スタッフが交代した際にも利用者にとって変わらない支援が提供できるものと思われるため、今後の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立はユニットごとにスタッフが話し合っていて決めている。盛り付けや配膳はスタッフが中心となっているが、もやしのひげ根とり、野菜の皮むきなどの下ごしらえや、テーブル拭きや床掃除などは利用者が行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の要望に合わせて臨機応変に対応している。時間帯も、日中だけでなく夜間の入浴や朝風呂にも十分対応できる体制をとっている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>漬物作りや花の手入れ、床掃除、洗濯物を干したりたたんだりすること、広告を切ってメモを作るなどの作業を、利用者の興味に応じて支援している。暖かい時期には畑仕事なども積極的に行っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>週に2、3回、近くのスーパーやホームセンターへ買い物に出かける機会がある。極力移送費を発生させないように、役場の所用や食材購入の際に同乗し外出する工夫をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、スタッフともに身体拘束の弊害をよく理解しており、マニュアルも整備されている。内部研修のテーマにも取り上げ、学習の機会を設けている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っていない。スタッフの把握の下、郵便受けから夕刊を取ったり、居室の外に洗濯物を干したり、自由に外に出られるようになっている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を実施している。マニュアルが整備され、運営推進会議の場で消防へ実施状況を報告している。月に1回は「消防用設備自主点検表」に基づき、消火器、火災報知器、誘導灯の状態をチェックしている。万が一の際には町内会や警察の協力を得られる体制になっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を把握し、不足の場合は代替食で補っている。疾病や内服薬の関係で禁食となっているものを医師から確認し、配慮している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関に手指消毒液を設置している。体調不良の来所者には留意し、運営推進会議にも風邪症状等ある場合は出席を断ることもある。インフルエンザ予防接種はスタッフ、利用者とも全員が受けている。マニュアルにあるエタノールではなく、次亜塩素酸ナトリウムを噴霧しての消毒を随時行っている。		マニュアルの見直しを行ない、実情に合わせて再整備することで、より効果的な感染症対策が講じられるものと考えられる。浴室は水垢や汚れが目についた為、日常的な清掃のほか、定期的に特別な清掃を実施することでより清潔が保持できるものと思われる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには透明ガラスが取り付けられているが、のれんや装飾品で目隠しをし、中が見えないようにしている。ホーム内に幼稚な飾りはなく、生花をテーブルに生けている。トイレはアコーディオンカーテンの仕切りの中にさらにカーテンを取り付けていて、安心して使用出来るような工夫をしている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、床頭台、ベッドは備え付けのものである。私物の持込の働きかけを積極的に行っているほか、本人の好みで、家族の写真や誕生日のお祝いの色紙、カレンダーなどを飾りつけている。私物持込の少ない利用者へは、スタッフの私物を提供し、家庭的な雰囲気が出せるよう配慮している。		

 は、重点項目。